

～豆まきの由来～

2月3日は節分の日ですが、もともとは季節の変わり目という意味で立春・立夏・立秋・立冬の前日を指していました。特に立春が1年の初めと考えられることから、節分といえば春の節分を指すようになりました。立春を新年と考えたとき節分は大晦日にあたり、前年の邪気を祓(はら)うということで豆まきが始まったそうです。豆まきの行事は追儼(ついな)といわれる悪い鬼を追い払う儀式のことで、中国から伝わった風習だそうです。



豆まきをする際に、「鬼は外！福は内！」というかけ声が一般的ですが、「鬼も(は)内!!」という地域もあるそうで、鬼を祭神・神の使いとしている神社や鬼がつく名字の人は後者のかけ声を使うようです。豆まき以外にも、柊鰯(ひいらぎいわし)という柊の小枝に鰯の頭を刺したものがあり、柊の葉のトゲが鬼の目を刺し、鰯の臭いで鬼が近寄らないといわれています。節分の日には豆を食べて、この一年からだが丈夫でいられるように願いましょう。

 **ウオクニ株式会社**
<http://uokuni.co.jp>

※当社における食品の安全・安心および健康に関する取り組みについてはホームページをご覧ください。